

平成 28 年度事業常任委員会視察報告会要点記録

- ・日時 平成 28 年 12 月 14 日
- ・場所 第 1 委員会室
- ・会議時間 11：10～11：50
- ・出席者 委員長 素原 佳一
副委員長 烏野 隆生
池内 矢一
稻田 悅治
今口 千代子
金子 拓矢
鳥居 宏次
米田 貴志 (五十音順)

1. 視察先 : 千葉県成田市

テーマ : インバウンド観光の取り組みについて

(成田空港を利用したトランジットツアーについて)

日時 : 11 月 16 日 水曜日 9 時 00 分から 15 時 00 分まで

成田市の取り組み

(発言要点)

- ・成田空港には年間 25 万人ものトランジット客が存在するが、これを地域活性化に活かすべく平成 26 年より成田トランジットプログラムを立ち上げた。
- ・成田市は自らを冷静に「成田を目的に宿泊する外国人はいない」と分析しトランジット客に目を付けたところが功を奏したと思う。
- ・本市には恒常に日本文化体験をしてもらえる施設等が集積されていない。
- ・現時点では提案するならば、その時期(例えば祭礼、盆踊り等)に応じてプログラムを変動させる他ないのではないかと思う。
- ・ボランティアガイドの募集では、募集期間 10 日間で 50 人を目標としていたが、東京・横浜・千葉などから、中学生から高齢者までの 400 人以上の応募があった。応募の動機としては、語学力アップである。
- ・関空近隣自治体等により設立された団体等でのトランジットツアー等への取り組みはあったものの、実績は皆無に近く、設立した関連団体等の活動も活発とは言えない状況で、岸和田市ののみでの取り組みは限界もあり、今後、近隣市町や関係団体との真の連携なくして、インバウンド観光客の取り込みの

実現は現在のところ困難である。

- ・成田空港と成田山新勝寺をコラボしたインバウンドの取り組みは、実によく考えられた内容であったと思う。
- ・岸和田とは全く比較にならないスケールで、岸和田が参考にする事を見つけるのは、難しかったがインバウンドに取り組む職員さんの姿勢には感銘するものがあった。
- ・それぞれの町のあり様は違うので、真似はできないが、利用者の意見に向かって、工夫に工夫を重ねて成功させてきたことは多いに参考になった。
- ・岸和田市にとって今後どのように取り組むかは、関西国際空港周辺の自治体が集まってトランジットツアー研究会の開催や国や府を巻き込んで運営組織の立ち上げと関西国際空港のハブ空港としての発展のために取り組んでいくことが重要である。
- ・関西国際空港の場合には、空港内施設の充実があり、空港外での観光には、なかなか結び付かないと思うが、本市でも体験できる観光の充実を図り、国外への広報を今より発信し、岸和田城や城下町、だんじり会館のだんじりの展示、太鼓の体験や法被を着ての写真撮影など外国人向けの観光の取り組みが必要である。
- ・現時点での関西国際空港を活用した泉州全域のトランジット観光に取り組むには無理がある様に思えてならない。
- ・成田インでゴールデンルートを通って関西国際空港から帰国される前に、荷物を関空で預け手ぶらで泉州観光を楽しんで頂けるツアーは提案できるのではないだろうか。
- ・現在は泉州観光プロモーション推進協議会を中心に泉州観光をアピールして頂いているが、さらに活発に取り組まなければならないのではないだろうか。
- ・成田空港のハブとしての空港の利点を見せつけられた視察であった。
- ・関西国際空港に隣接する都市として利点を見出し、本市だけに留まらず、泉州一帯の観光に繋げたいものである。
- ・本市もインバウンド観光の取り組みとして、再度トランジットツアーに取り組むことを検討すべきと考えます。

2. 観察先：千葉県柏市

テーマ：援農隊の運営による地元農業の活性化に向けた取り組みについて

日時：11月 17 日 木曜日 9 時 30 分から 11 時 15 分まで

柏市の取り組み

(発言要点)

- ・柏市が何故、農業塾を設立したのか。それは市が直面する高齢化が背景にあった。
- ・高齢化社会の安心で豊かな暮らし方・町のあり方を柏市、東京大学、UR 都市機構で研究する。そこで、目指した街の姿の中から、「生きがい就労の必要性」が提案された。
- ・現在の高齢化社会の中で、様々な生きがいを見つける事は必須である。その課題と柏市が抱える農業の担い手不足と耕作放棄地の解消に向けたマッチングにより、それらの課題解消の一つに繋がっている。
- ・本市の耕作放棄地の有効利用に向けた取り組みを行うには、農業を目的にスタート、JAとの協働が必要と考えます。
- ・農業の担い手が減少していく中、柏市が取り組んでいる LLP は、本市においても活用できると感じます。
- ・本市においても、耕作放棄地が増加し、対策を考えなければならない。
- ・柏市は、全国有数の野菜産地で、蕪、葱、ほうれん草の生産高が多く特産品としている。

一方、担い手不足、耕作放棄地の増加などの労働力不足が表面化している。

こうした耕作放棄地を活用し、事業規模拡大への取り組みや人材育成が最重要課題となっている。

- ・岸和田でも農業塾のようなものを開催し、セミプロの農業者の育成に取り組んではどうか。
- ・休耕地の活用という点では成功しているのではないか。
- ・岸和田市における農業政策の現状と課題、課題解決に向けた具体的な政策が実施できているのか明確ではない。
- ・行政・農業者及び農業関係機関の連携によって、課題解決および農業の充実に向け、取り組む必要があると思う。
- ・農業支援や耕作放棄地解消というと若手就農希望者確保に考えが囚われがちであるが、同市の高齢者福祉の観点からこの問題にアプローチしている点は高く評価されるべきで、本市でも取り組める可能性は十分にあるよう思う。

以上